

一、差つかわす正使 誦詩

副使 魏武 安謨廬

通事 蔡回保

注(1) 旧載、遣使 (四一〇八) の遣使をさす。

1-41-10

琉球国王より蘇門答刺国あて、鄔普察都等を遣わして速やかな交易を請う咨(一四六七、八、□)

琉球国王、蘇門答刺国王殿下に移咨す。

窃ひそかに聞くに、礼は交通を以てし、信は講好を以てす、と。礼に非ず、信に非ずして曷なんぞ邦交の道を尽さんや。恭しく惟うに、賢王、禄位に嗣登し、徳は邦家を被い声華は遠邇に揚ぐ。忻ぶに足り羨むに足る。

茲こゝに者特に正使鄔普察都・通事紅英等を遣わし、礼物の誠を致して王廷の下に聘し、申のぶるに交隣を以てし貿易を通ぜしむ。惟だ自ら其の宜を得るのみに非ず、抑も且つ其の利を両便にす。船内に、亦た微貨有り。乞う、属に令行し作成して早すみやかに買売ゆを与し、風迅に赶趁して回還し利便ならしめんことを。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開しらす

各色段五匹 青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

青碗二千個

右、蘇門答刺国に咨す

成化三年(一四六七)八月 日

一、差つかわす正使 鄔普察都 游那仕 宋紀

通事 紅英 田春

1-41-11

琉球国王より滿刺加国あて、沈満布等を遣わして速やかな交易を請う咨(一四六七、八、□)

琉球国王、滿刺加国王殿下に移咨す。

夙つとに厚恵を蒙り感慰まこと良に深し。詢知するに、賢王の寿体多福なるは、自ら天、之を佑たすく。且つ敝邦と貴国と交通和好するは、蓋し亦た有年にして、一朝に非ず。一介の使の往来の能く是れを致さんや。茲に正使沈満布・通事蔡回保等を遣わすに当り、幣交して国王殿下に報聘せしむ。笑留すれば是れ幸なり。其の船内に亦た微貨有り。望のぞむらくは賛成①を賜い、早すみやかに貿易して回帰する